

インドネシア人の運転免許取得を支援します！

運転手不足解消へ外国人材

インドネシア人 支援枠組み

交通ルール 日本と同様

チームは、外国人労働者の受け入れに活動する行政書士の宇佐美さん（浜松市中央区）をはじめ、同区のセイブ自動車学校とエネジン株式会社販売のエネジン、運転免許の教本出版のエイ

ト道交法出版（北海道）などで構成。昨年、特定技能制度の対象分野に自動車運送業が追加されたことを踏まえ、始動した。原セイブ自動車学校が、既にインドネシアの自動車学校と連携し、希望生徒が日本式の運転ルールやマナーを学べる仕組みを整えた。今後、日本の運送業者の受け入れ要請があれば、特定技能評価試験や日本語能力試験、審査などを経て入国

人手不足が深刻な運送業界で、ドライバーとして外国人材を登用しようと県内の異業種がプロジェクトチームを結成した。中でも、交通ルールなどが日本と同じで慣れやすいとして、インドネシアに着目。日本での運転免許取得や企業とのマッチングだけでなく、生活支援に至るまで包括的な枠組み作りに取り組む。

現地の関係者と会議するプロジェクトチームのメンバーら＝2月中旬、ジャカルタ（プロジェクトチーム提供）

開発されたインドネシア語の翻訳が記された免許教本。左のページに日本語の説明が、右のページにその翻訳が書かれている

県内異業種 ノウハウ生かす

昨夏に、県トラック協会（静岡市駿河区）で開かれた特定技能制度に関するセミナーで講師を務めた宇佐美さんは「外国人労働者の受け入れには、採用の基準を定めるとともに支援体制を確立しておくことが重要」と解説。県内の運送業経営者ら約50人にプロジェクトの意義を説明した。

西園は同じ左側通行で、右ハンドルの車両が主流。県セイブ自動車学校の早川智文常務は「国民の多くが信仰するイスラム教の戒律で飲酒が禁止されている。飲酒運転の心配もない」と話す。インドネシア国内でもプロジェクトへの関心は高く、提携先の自動車学校では日本式の訓練コース建設が進んでいる。チームの一員で、外国人材の紹介などを手がけるCBソリューションズ（東京）の仲沢大代表取締役は「安全性や信頼性など日本企業が安心して受け入れられるよう、チームのメンバーや企業のノウハウを生かしたい」と前向き。宇佐美さんも「日本とインドネシア双方にウィンウィンなロールモデルになれば」と見据える。

（清水支局・原口和）

現在、私たちはインドネシア人の方々が日本でトラックなどの運転手として就労できるよう支援するプロジェクトを進めています。本プロジェクトには、特定行政書士の宇佐美さんをはじめ、静岡県のセイブ自動車学校、現地の自動車学校、エネジン株式会社など、計5社が参加しています。具体的な支援策としては、インドネシアの提携自動車学校において、日本の交通ルールや安全運転について学べる特別コースの開設を予定しています。来日前に基礎知識を身につけることで、日本での運転にスムーズに適応できるようサポートします。また、エネジン株式会社は、来日後の居住先探しをお手伝いし、安心して生活をスタートできるよう支援いたします。今後も、関係機関と連携しながら、日本での就労を希望する外国人の皆様が安心して働ける環境を整えてまいります。

令和7年(2025年)5月11日(日) 静岡新聞

